

# 課題対応取組み報告書

名称	平野区地域包括支援センター
提出日	令和 4 年 6 月 23 日

カテゴリー ( 主なものをひとつチェック )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 ( 居場所づくり等 )
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
活動テーマ	コロナ禍における早期発見・早期対応のための分野を超えたネットワークの構築を目指して！	
地域ケア会議から 見えてきた課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の集いの場の縮小・中止による社会参加の機会の減少等で高齢者の生活課題の潜在化や、活動量、運動量が低下して虚弱状態となり、健康が損なわれるなどのリスクが高まっている。更に、今まで利用していた介護サービスが通常どおり利用できなくなり、それに伴う介護者の負担増大が見られる。	
対象	地域住民や地域活動者（民生委員、町会役員、地域福祉活動コーディネーター等）、医療機関、金融機関、スーパー、薬局、家族介護者、支援機関（ケアマネジャー、介護保険事業所、区社会福祉協議会関連部署等）	
地域特性	平野区のほぼ中央部に位置し、平野、平野西、新平野西、平野南の4地域からなる。 区役所、保健福祉センター、郵便局、消防署など公共施設や、商店街、大型店舗などがあり、公営住宅は区内で最も少なく、医療機関や介護サービス事業所が豊富にある。交通手段として、東西には国道25号線や南港通り、南北には内環状線が通り、鉄道はJR大和路線（平野駅）と地下鉄谷町線（平野駅）が通り、利便性の高い地域である。 地域の雰囲気は、江戸時代初期の町割りを継承する旧平野郷町とそれをとりまく土地区画整理事業により整備された市街地から成り立ち、寺院も多く、旧平野郷町の名所旧跡が独特の雰囲気を醸し出している。	
活動目標	・当面続くと思われる新型コロナウイルス感染症流行の影響を踏まえ、引き続き高齢者の生活課題が深刻化する前に、早期発見・早期対応につなげるため、寺院や商店会など生活に関連する店舗にも輪を広げ、総合相談窓口としての周知と連携強化を進め、コロナ禍でもつながっていく方法を関係機関と考える。	
活動内容 ( 具体的取組み )	・リーフレット設置先への聞き取りなどのフォローも継続して行い、さらに連携先を高齢者、または高齢者がいる世帯が立ち寄り生活関連店舗等の分野にも広げるとともに、早期発見・対応体制の強化を進めた。 ・区社会福祉協議会のホームページや広報誌などを通じて、地域包括支援センター（以下「包括」という）の役割を広く知ってもらうような様々な媒体を活用した。 ・コロナ禍において積極的な対面での面談ができない場合は、生活体制整備事業、地域福祉活動コーディネーターなどの関係機関と連携し、周知物や連絡票のポスティングなどの非接触型アプローチにも取り組んだ。 ・認知症初期集中支援チームと区内包括協働で、金融機関へ認知症の方の早期発見・早期対応の研修会を実施した。 ・年度当初は地域活動が縮小する中で、個別訪問が必要な場合は消防署や地域組織などの関係機関と連携するなど、アウトリーチを行った。 ・年度後半は、地域の集いの場が徐々に活動されてきた所においては、積極的に参加し、包括の広報・啓発やなんでも相談会を開催するなど、高齢者の課題に対する、早期発見・早期対応を目指した取組みを行った。 ・家族介護支援事業や介護家族の会の周知等を通じて介護者の支援に取り組んだ。	
成果 ( 根拠となる資料等があれば添付すること )	・リーフレットを金融機関に設置することで、金融機関の職員にも包括の存在を知ってもらい、リーフレット等がなくなると連絡をくれるような、顔の見える関係性になり、「気になる高齢者」がいた場合にも、すぐに連携が取れるようになった。 ( 上記 の研修会を実施した後、その金融機関から実際の相談の連絡があった ) ・なんでも相談会（出張相談）を繰り返し行うことで、1回あたりの相談件数は少ないが、地域住民と顔の見える関係性になり、高齢関係以外の相談（スマートフォンの使い方等）も気軽にしてもらえるようになり、今後のつながり作りにもなった。( 友達の相談もしてもらえることがあった )	
今後の課題	この3年ほど、地域活動が大きくストップしてきた中で、今後徐々に再開されてきたときに、認知症やフレイルが進行した高齢者の相談が増えてきた場合の対応や、引き続きアウトリーチの支援を続けることで、早期発見・早期対応を行っていきたい。また、昨年度は高齢者虐待の通報が少なかったことから、潜在化しているかもしれない高齢者の権利擁護の部分についても、早期発見に向けて取り組んでいく必要がある。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター  
運営協議会開催日

令和 4 年 7 月 27 日 (水)

専門性等の該当  
( 該当個数は問わない)

地域性       継続性       浸透性       専門性       独自性

評価できる項目 ( 特性 )  
についてのコメント

\* 今後の取組み継続に向けて、区  
地域包括支援センター運営協議  
会からの意見等を記載。

・取組みを継続・拡張するには、地域の各種団体、活動者の理解、ご協力が不可欠であることから、地域役員等への啓発が重要となると考えられる。  
・企業のコミュニティスペースを活用した「なんでも相談会」を継続されており、区社会福祉協議会も引き続き協働して企業連携を行いたい。  
・カテゴリー以外の取組みにも、素晴らしい成果を出しておられると思う。

# 課題対応取組み報告書

名称	平野区加美地域包括支援センター
提出日	令和 4 年 6 月 22 日

カテゴリー ( 主なものをひとつチェック )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 ( 居場所づくり等 ) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	気になる高齢者のマッピング活動を通じた戸別訪問による見守り活動	
地域ケア会議から 見えてきた課題	コロナ禍で既存の繋がりが無くなった事などにより、支援を要する高齢者の変化に気付きにくい。	
対象	地域住民、地域福祉活動コーディネーター	
地域特性	新型コロナウイルス感染症による様々な活動自粛の影響で、社会参加の機会や人との繋がりが無くなり、これまでであった「見守り機能」が十分に働かなくなっている。	
活動目標	・支援対象者の早期発見、早期対応 ・活動を通じて隣近所に気になる高齢者が居ないか日頃から気に掛ける意識を養う	
活動内容 ( 具体的取組み )	ひとり暮らしや高齢者のみの世帯、「8050」等の複合課題を抱えた世帯が増加しており、地域での見守り機能の強化が必要と日々感じておられた地域福祉活動コーディネーターが中心となり、住民組織関係者、見守り相談室と協働した取り組みを行った。「気になる」とはどういう人を指すのか、「見守る」とはどういう事なのか、実際の発見後には支援機関がどのように動くのか等をテーマに研修を事前開催。その後「気になる高齢者」を町会地図にマッピングする活動(参加者：町会長、女性部長、民生委員、地域福祉活動コーディネーター、区社会福祉協議会、行政、地域包括支援センター(以下「包括」という)、気になる高齢者を戸別訪問する活動を実施。	
成果 ( 根拠となる資料等があれば添付すること )	1 小学校区内にある16町会-108世帯の規模で見守り訪問を行い、地域住民目線から様子が気になるとされる高齢者の状況把握を行う事が出来た。この活動を実施した地区における住民組織関係者からの相談件数増、相談実人数増、訪問対応件数増の変化が見られた。活動を通じて住民組織関係者に気になる高齢者への意識や包括・見守り相談室の周知が深まり、早期発見・早期対応が叶えられたと考える。	
今後の課題	当地区の地域福祉活動コーディネーターはR4年度もマッピングや見守り訪問を一定の期間毎に継続する事を思案しておられ、引き続き連携しながら活動を実施したいと考えている。R3年度の戸別訪問では活動者が特定の機関や立場の人に固定されており、今後も活動を継続・浸透させていく為に負担や押し付けにならず活動できる人を増やしていく事も視野に活動継続していきたい。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4 年 7 月 27 日 (水)	
専門性等の該当 ( 該当個数は問わない )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 ( 特性 ) についてのコメント  * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・マッピング活動を通じた戸別訪問は、マップの更新等も定期的にも実施する必要性もあり、地域の各種団体・関係者のご協力が不可欠だと思います。 ・インフォーマルサービスの発信や集いの場の発掘等を、区社会福祉協議会も引き続き連携して取組みたい。 ・カテゴリに対しての取組みをしっかりとされていると思う。 ・それぞれの地区の特性に合った見守り、集いの場等への参加が見られる。	

# 課題対応取組み報告書

名称	平野区長吉地域包括支援センター
提出日	令和 4 年 6 月 22 日

カテゴリー ( 主なものをひとつチェック )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 ( 居場所づくり等 ) <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	「地域」と「専門職」が繋がり、切れ目なく地域で見守るネットワーク作り 地域における高齢者の実態把握とフレイル予防の取組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	複合課題を抱えた世帯への支援 ・精神障がい疑われる本人・家族への支援介入の難しさ、支援が長期化 ・当事者の「生き辛さ」への理解の必要性  コロナ禍における「閉じこもり」「フレイル予防」の取組み	
対象	圏域内を中心とした高齢・障がい者支援関係機関、地域支援関係者 ②圏域内の高齢者	
地域特性	長吉圏域は高齢者人口は区内 5 圏域で最多である。高齢化率は区平均よりやや高い。圏域内では連合ごとに高齢化率に大きな差異がある。地域には木造家屋が密集している地域と、公営住宅の地域があり、世帯構成も地域により特徴がある。近年公営住宅の建て替えにより住民同士関係が希薄化している地域もある。	
活動目標	地域支援者交流会を通して障がいの理解を深めて行く取組みを継続する共に、相談支援事業所等と継続的に事例検討会を開催し、ケース発見時の連携のあり方 ( 可能性 ) について検討を行う。 高齢者の実態把握活動及びフレイル予防を目的とした地域での体操教室の実践が行えるようにする。	
活動内容 ( 具体的取組み )	6 年前から、高齢・障がい者支援機関、地域支援者など多様な機関に参集いただき、「顔の見える関係作り」を行ってきたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送った。今年度はオンライン等も活用し、本交流会を再開し、コロナ禍における新たな課題共有と今後の情報共有や連携のあり方について検討を行っていく。  ② 7 月より、総合相談窓口 ( ブランチ ) ( 以下「ブランチ」という ) と協働で出張相談会を 2 回/月開催し、それに合わせて映像コンテンツを用いた体操プログラムを開催。しかしながら参加者はほぼなく、第 6 波等の影響もあり体操プログラムについては中断しており、周知や開催方法について再度検討を行う。	
成果 ( 根拠となる資料等があれば添付すること )	R 3 年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大により地域支援者交流会は開催を見送った。しかしながら今までの地域支援者交流会でつながりの持った機関と個別のケース対応について連携が促進され、医療関係者からの相談件数も前年度と比べ約 2 倍に増加した。圏域内のケアマネジャーとの意見交換はオンラインにて 2 回開催した。  ② 体操プログラムの開催については、新型コロナウイルス感染症第 5 波・6 波の影響により、3 回の開催のみに留まった。出張相談会についてはブランチが継続的に開催。	
今後の課題	新型コロナウイルス感染症感染拡大時においても継続できる取組み内容を検討、継続実施をしていく。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4 年 7 月 27 日 ( 水 )
専門性等の該当 ( 該当個数は問わない )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目 ( 特性 ) についてのコメント  * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・住民同士のつながりの希薄化に伴い、地域組織関係者へのアプローチも難しい。地域との関係づくりの工夫が必要と考える。 ・カテゴリに対しての取組みに成果を出すような活動をされていると思う。 ・認知症強化型地域包括支援センターとして、認知症初期集中支援チームと連携した取組みをされており、「生活支援体制整備」の立場で、圏域内の居場所づくりを区社協も共に三者で実施できればと考える。

# 課題対応取組み報告書

名称	平野区瓜破地域包括支援センター		
提出日	令和 4 年	6 月	22 日

カテゴリー ( 主なものをひとつチェック )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 ( 居場所づくり等 ) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	瓜破北 暮らし方講座での認知症啓発の実践	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<b>認知症の受容を拒否する傾向がある</b> 認知症支援において制度やサービスと繋がる上で、医療受診が必要であるが、その医療受診を拒否し、制度上の支援が受けられず生活課題が解決しない傾向がある。 疾患受容拒否の背景については自身が症状に気づいていても治療を避ける傾向があり、「診断をされたくない」「近隣の病院に行くと近所に知られるから行きたくない」という言葉が要支援者から挙がっている。 認知症に対する否定的な考えが、受診拒否となり、生活課題解決の阻害要因の一つになっている。	
対象	地域役員 および 地域住民	
地域特性	商業地域のある北部と、大和川があり、のどかであるが高齢者には外出が不便な南部の地域がある。 公営住宅のみで店舗がない地域や昔ながらの戸建て住宅が多い地域など、地域特性は様々である。 高齢化率にも特徴があり、瓜破：28.4% 瓜破西18.8% 瓜破東：36.9% 瓜破北：52.7%。 平野区全体の27.2%に対し、瓜破全域で29.5%と高齢化率は高い地域である。	
活動目標	認知症のネガティブなイメージを緩和し、気兼ねなく相談や受診ができる	
活動内容 ( 具体的取組み )	『瓜破北暮らし方講座』として取組みを実施した。コロナ禍によって延期を繰り返しながら、密を避けるうえで同内容を少人数に分け、全3回 ( R3.3.17 R3.7.17 R3.11.20 ) に分けて実践した。 内容) 認知症に対して当事者意識を持つことをテーマとした研修を認知症初期集中支援チーム ( 以下「オレンジチーム」という ) と協働して実施した。 ・早期発見につながるために自身の変化に気づいてもらうことの重要性から、ひとり暮らしが多い地域性と併せて自分以外の他者、地域とのつながりを持つことを啓発した。また、受診するにあたり、まずはどこにいくべきかを近隣の医療機関を紹介しながら、主治医へ相談した後の経過や検査の内容、支援までのプロセスについて説明し、認知症相談に対する不安を解消する内容とした。 ・上記内容と併せて、瓜破北を考える会にてスマホ勉強会を同時開催し、地域住民の興味関心が高い内容と合わせて行うことで、より広く受講者を募ることができた。	
成果 ( 根拠となる資料等があれば添付すること )	・暮らし方講座アンケートの内容から実際のご近所とのつながり方について学びたいという意見や、全体参加者のほぼ10割が近隣とのつながりの重要性が必要という回答であった。 ・認知症のネガティブなイメージは社会的課題であり、草の根的に啓発を継続していく必要があると考える。	
今後の課題	・「認知症における当事者意識を持つこと」を発信する機会は継続して必要であり、瓜破北以外の圏域でも実践し、心配になった時に相談機関につながることや、主治医に気兼ねなく認知症の相談ができるようにオレンジチームと協働した認知症啓発をしていきたい。 ・今後この取組みを通じて認知症の捉え方の意見をアンケート等で集約し、認知症の啓発すべき点を細分化し、認知症のどの部分に誤解や偏見があるかを考えながら実践していきたい。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4 年 7 月 27 日 ( 水 )	
専門性等の該当 ( 該当個数は問わない )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 ( 特性 ) についてのコメント	・「瓜破北を考える会」の継続、更に「暮らし方講座」も合わせ、引き続き区社協も協働して検討していきたい。 また、圏域内で「暮らし方講座」をひろげる取組みも共に考えたい。 ・圏域内の瓜破北地域以外の地域への拡張を期待します。 ・カテゴリーに対しての取組みに成果を出すような活動をされていると思う。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		

# 課題対応取組み報告書

名称	平野区喜連地域包括支援センター
提出日	令和 4 年 6 月 6 日

カテゴリー ( 主なものをひとつチェック )	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 ( 居場所づくり等 )
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
活動テーマ	認知症相談窓口の新たな周知方法と早期に必要な支援・制度の活用ができる環境づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症の理解不足による、早期対応の遅れ ・相談窓口の支援内容が周知されていないことによる早期発見の遅れ ・家族機能の低下により支援が困難になることが散見される	
対象	地域住民・専門職	
地域特性	・障がいのある子どもと同居の高齢者の支援困難事例への地域ケア会議が毎年開催されている。 ・圏域の高齢化率も30%を超えており、ひとり暮らし高齢者世帯の多い地区もある。 ・認知症進行を起因とした近隣からの苦情が地域包括支援センター（以下「包括」という）に寄せられることがある。	
活動目標	新たな周知方法の検討と成年後見制度の活用に対する意識を高められるツールづくり	
活動内容 ( 具体的取組み )	<p>新たな周知活動の取組みとして、認知症初期集中支援チーム(以下「オレンジチーム」という)と総合相談窓口(ブランチ)(以下「ブランチ」という)と内容について検討し協働して実施した。</p> <p>令和3年4月28日 打ち合わせ会議 「幅広い世代への相談機関の周知・情報発信の方法について」                  令和3年5月28日 打ち合わせ会議 「SNSを活用した情報発信の推進について」                  令和3年7月30日 打ち合わせ会議 「動画の作成にあたっての内容について」                  令和3年9月30日 打ち合わせ会議 「動画の内容の協議と職員のインタビュー動画について」                  令和3年12月8日 打ち合わせ会議 「動画の修正箇所の協議」                  令和3年5月よりInstagramでの発信開始。計13回情報発信をした。                  令和4年度早々にYouTubeにて動画を配信予定。</p> <p>平野区内包括、オレンジチームと協力して金融機関対し相談窓口の周知と認知症の研修会を開催した。                  令和3年10月27日、28日 関西みらい銀行平野支店にて開催                  令和3年12月21日 関西みらい銀行平野中央支店にて開催</p> <p>オレンジチーム・ブランチと協力して、喜連4地区の民生委員に認知症についての研修と相談窓口の周知を行った。                  令和3年10月26日 喜連地区民生委員協議会研修会 テーマ「若年性認知症と相談窓口について」                  令和3年11月19日 喜連東地区民生委員協議会研修会 テーマ「若年性認知症と相談窓口について」                  令和3年11月20日 喜連北地区民生委員協議会研修会 テーマ「若年性認知症と相談窓口について」                  令和4年1月23日 喜連西地区民生委員協議会研修会 テーマ「若年性認知症と相談窓口について」</p> <p>オレンジチーム、ブランチと協働して地域支援者同士の顔の見える関係づくりのため障がい者支援機関も交えての交流・意見交換を行った。</p> <p>令和3年4月28日 打ち合わせ会議 「障がい者支援機関との関係づくりのためのアプローチ方法について」                  令和3年5月28日 打ち合わせ会議 「障がい者支援機関との関係づくりのためのアプローチ方法について」                  令和3年7月30日 打ち合わせ会議 「障がい者支援機関との関係づくりのためのアプローチ方法について」                  令和3年9月30日 打ち合わせ会議 「障がい者支援機関との関係づくりについて」                  令和3年10月27日 打ち合わせ会議 「障がい者支援機関との勉強会事前打ち合わせについて」                  令和3年11月19日 障がい者支援機関の職員による勉強会の開催 参加者：10名                  令和3年12月8日 打ち合わせ会議 「勉強会の振り返りについて」                  令和3年12月28日 オレンジチーム・ブランチと交流会開催に向けて打ち合わせ                  令和4年1月19日 障がい者支援機関と交流会開催に向けて打ち合わせ                  令和4年2月25日 地域支援者交流会をオンラインで開催した</p> <p>参加：圏域のケアマネジャー、地域福祉活動コーディネーター、障がい者支援機関。参加者：18名                  令和4年3月11日 平野区内包括主催の自立支援型ケアマネジメント研修会の中で、障がい者福祉サービスの制度研修を区の担当者を講師に招き開催した。参加者：69名</p> <p>成年後見制度の活用に対するツール作りについては中止し、障がい者の支援制度の理解と顔の見える関係づくりに活動目標を変更した。</p>	

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関と協働しての相談窓口の周知・広報のツールが完成し、来年度YouTubeにて動画を配信することとなった。今後も継続して発信していく予定。</li> <li>・金融機関との連携が深まり、包括に相談をいただける機会が増えてきている。</li> <li>・地域の民生委員との関係が深まりお互い気軽に相談できる体制が構築できている。</li> <li>一部の障がい者支援機関と包括・ランチと関係が深まりつつある。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSでの発信をどのように効果的に広げていくか検証しながら、ゴールを設定していきたい。</li> <li>・金融機関に関しては、Win-Winの関係を継続していくためにどうしていくかが課題である。また、個人情報の取り扱いに関するルール作りも必要と思われる。</li> <li>・高齢者支援機関と障がい者支援機関との関係作りの裾野を広げていきたいが、その必要性を両機関にどのように伝え理解していただくかが今後の課題である。</li> </ul>
<p>以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和 4 年 7 月 27 日 (水)</p>
<p>専門性等の該当 (該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性      <input checked="" type="checkbox"/> 継続性      <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性      <input checked="" type="checkbox"/> 専門性      <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目(特性)についてのコメント</p> <p>* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YouTubeを活発に活用している。</li> <li>・SNSを活用した周知・広報からの支援へのつなぎについて、効果を期待します。今後の検証をどのように行っていくか、またその結果も知りたいところです。</li> <li>・区社会福祉協議会も地域の居場所づくり継続の支援に協働して取組みたい。</li> <li>・カテゴリーに対しての取組みに成果を出すような活動をされていると思う。</li> <li>・障がい者支援機関との関係性構築に努められている。</li> </ul>

# 課題対応取組み報告書

名称	西成区地域包括支援センター
提出日	令和 4 年 6 月 20 日

カテゴリー ( 主なものをひとつチェック )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 ( 居場所づくり等 ) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域における、情報提供ルート、早期相談ルートの再構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域の見守り、支援体制の中にある高齢者は、地域の「いきいき・元気教室」や「会食会」等に継続的に参加し、つながりの場を持つことができているが、それ以外の地域住民は、地域情報が入りにくく、新たな参加や関わりをつくるきっかけを見つけることができていない。 これは、圏域内全ての地域の共通課題だが、特に岸里地域においては、区内各所で新たな「集いの場」が創られる中、岸里地域は創出に遅れをとっていた。 また昨年度はコロナ禍の影響により、地域行事の多くが中止となり、一部地域では活動を再開したところもあったが、岸里地域は、今だ再開の見通しが立っておらず、支援の輪の中にあつた高齢者も、行き先が少なくなっている。 地域の声かけ、見守りを担う側も高齢化しており、支援する側が支援の必要な状況になるなど、早期発見につながるルートが弱まりつつあり、これまでの相談、支援ルートの見直し、再構築が必要とされている。	
対象	地域住民、介護保険関係者	
地域特性	国道 2 6 号線、地下鉄、私鉄と交通至便なエリアであり、他の地域に比べさまざまな世代が流入しマンションが多い。区役所、区民センター、郵便局本局のある地域であり、スーパー、医療機関なども徒歩圏内に点在し生活がしやすい。 地域活動を担っている住民が高齢化し、コロナ禍による活動を自粛をきっかけに活動をやめるとの声も聞かれる。	
活動目標	( 1 ) より多くの地域住民に情報が伝わるための方法、仕組みづくりを検討 ( 2 ) 各所から寄せられる相談のルートの分析、強化	
活動内容 ( 具体的取組み )	・岸里ネットワーク委員会 ( 月 1 回 ) に参加し、気軽に相談できる関係づくり、情報交換を行った。 ・岸里地域での通信、パンフレット配布活動 連合振興町の協力を得て、地域包括支援センター ( 以下「包括」という ) の通信を回覧板で周知 住宅管理センターの了解のもと、市営住宅に地域包括のパンフレットをポスティング ・課題抽出型地域ケア会議の活用 介護保険事業所の居場所を活用した「男前百歳体操」が誕生し、活動のきっかけ、ねらいを地域住民と共有するため、「マザーハウス」「地域の会館」「区社会福祉協議会」をオンラインで結び、開催の意義、今後の展開など情報交換を行った。 ・介護認定情報を活用したアプローチ方法の検討 区役所から提供される要支援認定者情報を包括システムに入力し、介護サービスにつなげていない高齢者の把握	
成果 ( 根拠となる資料等があれば添付すること )	・岸里ネットワーク委員会へ参加を続けることで、相談が寄せられ、岸里地域の件数が増えた。 ・的を絞った周知活動により、相談件数が増加した。 ( 新規初回相談：令和 2 年度 3 0 6 件 令和 3 年度 3 4 5 件 ) ・市営住宅へのアプローチをきっかけに、住宅管理センターより他の地域への活動にも協力を得られた。 ・地域、介護保険関係者、社会福祉協議会 ( 生活支援体制整備、見守り相談室 ) と話し合うことで、コロナ禍の現状を共有することができた。( 地域の活動も自粛し、つながりが希薄になってる。参加者の特技を活かす方法等 ) ・介護保険情報をシステム入力しておくことで、総合相談支援時に速やかな支援につなげることができた。	
今後の課題	コロナ禍で地域住民同士、介護保険関係者等つながりが希薄になっていった。ようやく地域の活動も再開の兆しが見え、改めてつながりづくりが大切になる。他機関連携を通じて居場所の支援、つながりが乏しい高齢者へのアプローチを進めていく。 また、包括につながった時点で重篤化している事例が増え、早期発見、早期対応、生活支援サービスの充実に向けた取組みが急務と考える。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4 年 7 月 4 日 ( 月 )
専門性等の該当 ( 該当個数は問わない )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目 ( 特性 ) についてのコメント  * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	岸里地域の特性から、的を絞ったアプローチがなされ、相談件数も増え効果が伺える。ネットワーク委員会へ月 1 回参加することで顔の見える関係性が作れ、今後の高齢者の早期の相談へつながるよう今後も期待します。

# 課題対応取組み報告書

名称	西成区玉出地域包括支援センター
提出日	令和4年6月3日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	いち早く出会う・つながる・元気になるまちづくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	生活の困難さの背景に精神疾患や認知症があること、セルフネグレクトによる生活困窮、未受診、介入拒否も多く、発見が遅れる要因として、単なる「ひとり暮らし」ではなく、地域との関係の希薄さ、社会的孤立の深刻さが見えてきた。また、新型コロナウイルス感染症拡大と自粛期間の長期化に伴う生活不活発から病状の悪化、精神面の落ち込み、不安感の増大が顕著であった。高齢者本人だけでなく、地域関係者、専門職間、全体的な活動への意欲、モチベーションの低下がみられた。	
対象	地域住民、介護支援専門員、リハビリ専門職・相談機関など(認知症初期集中支援チーム・障がい者基幹相談)	
地域特性	南津守) 西成区内16地区のなかで、唯一児童の人口が増加しており、工業跡地には建売住宅が建てられ、子育て世帯の人口流入と地域の交流行事もある。その一方で集合住宅には、あいりん地区からの転居者も多くみられ、近隣者との交流は少なく、孤立化が目立つ。 千本) 築古の空き家も数多く、民泊向けの住まいが増加している。地元住民の高齢化、人口減少がみられる。 玉出) 交通至便でスーパー、商店も多く、長年居住されている世帯が多いことから、見守り活動や交流も活発だが、地域の担い手の高齢化が懸念されている。	
活動目標	心身の健康維持と活動への意欲、コロナ禍でも楽しみを見いだせる活動の促進 課題を抱えた世帯をいち早く発見し、住民との良い出会いにつなげるネットワーク構築 複合課題、分野を跨る課題に対応できる職員の対応力強化	
活動内容 (具体的取組み)	圏域の介護支援専門員向けに「コロナ禍におけるメンタルヘルス」をテーマに勉強会を行った。事前にアンケート調査を行い、利用者だけでなく、支援者自身が心身の健康づくりの重要性を学んだ。 南津守地区(市営住宅)から見える課題を地域ケア会議で共有。認知症、精神疾患による介入困難事例が多かったことから、認知症初期集中支援チーム、障がい基幹相談支援センターとも意見交換を行った。また認知症サポーター養成講座を南津守地区、玉出地区でも住民向けに開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	メンタルヘルスに関する勉強会での意見を踏まえ、「コロナ禍におけるメンタルヘルス」「意欲低下へのアプローチ」をテーマに自立支援型ケアマネジメント検討会議で事例を提供した介護支援専門員にインタビューを行った。抽出した意見を理学療法士、生活支援コーディネーター、行政からも助言をもらい、重度化防止と自立支援に関し、理解を深めることができた。 市営住宅の住民からダイレクトに相談機関へつながるようなネットワークが構築されておらず、課題が潜在、遷延化しやすいことが見えた。地域関係者との関係づくりに向けての具体策について意見交換ができた。	
今後の課題	地域活動は新型コロナウイルス感染症拡大以前の形を維持できず、新たな様式や制限の中で徐々に再開の兆しも見える。フォーマルサービスだけに頼らない健康づくりの場、機会を創設していく。 住民同士が暮らしの変化により早く気づき、しかるべき相談機関につながるためのパイプを作る。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性)についてのコメント  *今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	介護支援専門員の勉強会では、コロナ禍で支援者自身の健康づくりの重要性を学び、その後も外部講師からの助言を取り入れ発展的な学びがされている。 南津守地区から見える課題を支援機関と共有できており、今後、地域関係者と関係を構築し、住民から早期に相談につながることを期待します。

# 課題対応取組み報告書

名称	西成区北西部地域包括支援センター
提出日	令和4年6月17日

カテゴリー ( 主なものをひとつチェック )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 ( 居場所づくり等 ) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	気配り・目配り・心配り マンパワーを含めた社会資源の充実	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし、特に男性高齢者が認知症や権利侵害等の課題を抱えるケースが多く、若いころからの生活習慣の継続が課題を重篤化させている。地域への認知症の啓発も継続しつつ、男性高齢者が社会参加できる場づくりが求められている。 また、ひとり暮らし高齢者に対する防災の意識づけも重要な課題である。	
対象	圏域内住民	
地域特性	高齢化率は大阪市の平均を上回っており、単身世帯率も高い。生活施設や社会資源が充実している地域と乏しい地域との落差が激しい。	
活動目標	ひとり暮らし、特に男性高齢者が地域とつながりを持ち、自身の役割を自覚し社会参加できる環境を整える	
活動内容 ( 具体的取組み )	松之宮地域で定期開催されているスマイルを活用させて頂き、年4回、「気配りさんサミット」を開催した。 にしなり隣保館ゆーとあい、長橋地域関係者と「支えあいマップ」について協働した。 梅南地域で、男性高齢者対象の「男前百歳体操」を毎週水曜日継続開催した。 北津守の市営住宅で定期開催している住民の居場所「コミュニティカフェ北津守」にて健康チェックの実施。 地域行事等で、認知症や権利擁護の周知啓発を行なう。 法人内事業「高齢者生きがい労働事業」と連携、新たな社会資源となった。 津守地域で予定していた認知症高齢者声かけ訓練はコロナ禍により中止となったが、法人、地域、商店街、児童を巻き込んだ認知症啓発スタンプラリー「オレンジまつり」を開催した。	
成果 ( 根拠となる資料等があれば添付すること )	「気配りさんサミット」を開催、関係機関にも参加願ひ日ごろの活動の様子や困りごとなどを共有、住民と関係機関との新たなネットワークの構築のかけはしとなった。 長橋の連合町会長を交え会議を開催し、地域のマンパワーと社会資源を見える化するマップ作りについて方向性を確認し、次年度への取り組みにつなげることができた。 男性に特化した百歳体操で、当初少人数スタートであったが少しづつ参加者は増加、閉じこもりがちであった男性高齢者にとって参加しやすい居場所となった。 健康チェックと合わせ、ミニ時事情報を提供し、社会資源の乏しい地域の情報発信基地となった。 地域住民向けに住民自身がボランティア講師として、腹話術による虐待研修を協働、身近に起こりうることとして虐待をとらえ早期発見に向けた啓発となった。また、長橋小学校で恒例となっている児童向けの認知症サポーター養成講座を開催、児童から親世代へも認知症についての関心を広げた。 就労意欲はあるが地域との接点が少なかった高齢者の社会参加の場となり、作業を通じての交流でお互いがお互いを見守るシステムの構築ともなった。 認知症啓発スタンプラリー「オレンジまつり」を開催、住民、地域関係者、区社会福祉協議会、商店、小学校、中学校、隣保館、居宅介護支援事業者、認知症初期集中支援チーム、認知症強化型地域包括支援センター、区長の参加もあり、幅広い世代への認知症啓発が実現した。	
今後の課題	本人の困りごとと、家族、近隣住民や友人が感じる課題が剥離しているケースが少なくない。本人を中心として、取り巻く環境へどうアプローチして地域での共存を継続していくのか、地域を含む関係機関との連携は欠かせないと感じる。また、相談機関につながった時には課題はかなり重篤化しており且つ複雑であることも多いため、発見機能の強化と相談支援機関が住民のより身近な存在となる工夫が求められている。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)	
専門性等の該当 ( 該当個数は問わない )	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 ( 特性 ) についてのコメント	腹話術が得意な地域住民にボランティア講師になってもらい、腹話術を通じて高齢者虐待の啓発をされたことは、社会資源の発掘と活用を上手にしており大いに評価できる。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		

# 課題対応取組み報告書

名称	西成区東部地域支援センター
提出日	令和4年6月18日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他(高齢者のニーズ調査から見てきた地域診断、幅広い地域関係者への周知活動)	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	コロナ禍での取組み(認知症の早期発見及び幅広い周知活動)	
地域ケア会議から 見えてきた課題	令和2年度も地域からのひとり暮らしの認知症高齢者を不安視する声が多々ありました。 認知症の方も不安を抱えながら生活しており、認知症への理解を深め地域の方とも共有する場が必要だと感じました。 また、8050はじめ、複合する課題を抱えた世帯の相談も増え、高齢者おひとりの変化から世帯の変化に気づくことが必要だと痛感しました。	
対象	地域関係者・地域住民	
地域特性	圏域内高齢者8101人。 単身で生活保護を受給する高齢者が多い。 他府県から移り住み、家族と関係が途絶えた方も多く、地域とのつながりも稀薄である。	
活動目標	認知症の理解を深めるための講演会や研修会を実施し、認知症高齢者を地域で見守る体制をつくる。 認知症の早期発見、早期対応のため、地域関係者や住民に対し周知活動を行う。複合する課題を抱えた世帯に対応するために、地域が高齢者おひとりではなく世帯の変化に気づける仕組みを考える。	
活動内容 (具体的取組み)	コロナ禍で取り組める活動を総合相談窓口や高齢者と検討し 「コロナ禍における生活アンケート」の実施。 幅広い地域関係者向けのリーフレットの配布(地域の薬局や不動産屋への配布など) 潜在化するニーズの掘り起こし(過去に訪問した高齢者の振り返り) 令和3年度活動報告(書面報告)を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	アンケートの結果、コロナ禍で活動が制限さればんやりと過ごすことが多くなり、認知症が進行したという方や、意欲の低下が伺われた方もおられた。(今後も継続する予定) フリースクールにつながった。 リーフレットを用いて周知活動を行うことができた。薬局や不動産屋、銭湯なども行った。 「つながりシート」からの掘り起こしたニーズに対応すべく定期訪問を継続している。 新型コロナウイルス感染症拡大前は関係者が参集し、活動報告会を開催していたが、今年度も書面報告となったが、多数のご意見、ご感想をいただくことができた。	
今後の課題	コロナ禍で心身機能の低下や地域とのつながりが希薄になった高齢者が多かった。 外出自粛の影響で認知機能が低下したり、家族関係の悪化した高齢者もおられる。 令和3年度の活動を継続しつつ、介護予防・認知症予防・集いの場(フリースクール、喫茶よってこなど)の展開相談に対して、早い段階での相談対応等に注力していきたい。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	アンケートから高齢者のニーズを把握し居場所へつなぐなど支援に繋がっており、アンケートを上手に活用されている。包括の周知活動では、地域の高齢者にとって身近なところにリーフレットを配布しており、今後も引き続き地域とつながりを持った活動を期待します。	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		